

「伝統を受け継ぐ」とは ～パラグアイ、ザンビア、佐渡、市川の暮らしから～

【実践者】

氏名	有本 眞実	学校名	新潟県佐渡市立河崎小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	5年 1組（18名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2023年9月～11月（8時間）		

実施概要

01 実践する教科・領域

総合的な学習の時間

02 単元名と単元目標

単元名：「伝統を受け継ぐ」とは ～パラグアイ、ザンビア、佐渡、市川の暮らしから～

単元目標：伝統工芸品の作り手の思いや市川の暮らしを知る活動を通して、自分たちにとって身近な自然や伝統をはじめとする佐渡の魅力のかけがえのなさに気づき、これから自分たちにできることを考える。

関連する学習指導要領上の目標：第5章 総合的な学習の時間 第2の2、3

03 単元の評価規準

①知識及び技能	それぞれの国や地域に暮らす人たちが大切にしている文化や価値観があることを理解している。
②思考力、判断力、表現力等	活動を通して学んだ自分の思い、学びによる自己の変容等、自分の考えをまとめ、表現している。
③学びに向かう力、人間性等	国や地域の異なる文化や価値観を受け入れ、尊重するとともに、自他の考えのよさを生かしながら地域の一員として関わりを深めていこうとしている。

04 単元設定の理由・単元の意義

自学級の児童は地元を好ましく思っていない傾向にあった。「田舎すぎる」「楽しい場所がない」「早く都会に行きたい」という言葉がよく飛び交う。そこで、児童が実際に見ることができない外国の様子を見せたり、児童の憧れである首都圏の子どもたちと交流させたりすることを計画した。自学級の児童が今まで思いつかなかった地元の良さに気付いたり、この地域での暮らし方を考え直したりするきっかけをつくりたいと考えた。

〈児童/生徒観〉

消極的な児童が多く、進んで発言する児童よりも、周りの様子をうかがった言動をする児童が多い。学級内には日本とフィリピンのダブルルーツの児童が2人おり、国籍に対して柔軟な考えをもっている。今年度は4月からSDGsの学習をしており、自分の身の回りの事象に対して、SDGsの観点を結び付けて考えることが得意である。

〈指導観〉

新潟県内において、外国籍をもつ児童の割合は、首都圏、関西圏に比べるとまだまだ少ない。しかし、日本在住の外国出身者や、外国にルーツをもつ児童は年々増加傾向にある。現在、日本で生まれ育つ子どもたちが、外国出身者と関わる機会が増えることは明白であり、その時に相手の価値観を大切にできる人であってほしいと願っている。

そのため、外国の現状を自分たちの地域の現状と重ね合わせて考えたり、首都圏の子どもたちと交流したりすることで、自分の考えを広げ、ふるさとを大切に思う気持ちを育てることができると考えた。

05 単元計画（全9時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	パラグアイと佐渡それぞれの伝統や文化を知る	パラグアイの文化を知る活動を通して、佐渡にも似た文化があることに気づき、文化のつながりを考えることができる。	・パラグアイの伝統工芸や行事、食文化を知る。 ・自分たちの地元にも、似たようなものがないか考える。	・ニャンドゥティ ・布 ・テルモ（マテ茶セット） ・写真、動画
2	「価値」について考える	「グアラニー」での買い物体験を通して、ものには「価値」があることを知り、身の回りにはどのような「価値」があるのかを考えることができる。	・100円は安い？高い？大金とは？ ・パラグアイの通貨「グアラニー」 ・パラグアイの通貨で買い物体験 (10,000 グアラニーで何が幾つ買えるか？日本円にするとどれくらいか？) ・労力、もの、公演、交通費など、対価となるものの存在、自分の身の回りの「価値」を知る。	・模擬紙幣 ・買い物の商品（プリントしたもの）
3	パラグアイの伝統工芸「ニャンドゥティ」について考える	ジグソー法でニャンドゥティについて調べる活動を通して、ニャンドゥティの価値を考え、伝統の継承に必要なものや時代背景を思い描くことができる。	・パラグアイの伝統工芸（ニャンドゥティ）について、ジグソー法で考える。【この伝統・文化に、いくらの値段をつけますか】 ・3人グループに戻って、それぞれチームで話し合ってきた考えを伝え合う。 ・10年後を予想し、伝統を受け継ぐには、お金・継承する人々・粘り強さなどが必要なことに気付く。	・ニャンドゥティの資料、実物

4 本 時	「ニャンドゥティ」「マテ茶」「鬼太鼓」について、多くの人に知ってもらう方法を考える	伝統工芸品の作り手の思いを知る活動を通して、自分たちにとって身近な自然や伝統をはじめとする佐渡の魅力のかけがえのなさに気付き、これから自分たちにできることを考える。	パラグアイの「ニャンドゥティ」と「マテ茶」、佐渡の「鬼太鼓」について、多くの人に知ってもらう方法を考える ・「伝統」とは。 ・それぞれの資料をもとに、文化を継承、伝達する方法を考える。 ・3人グループに戻って、それぞれチームで話し合ってきた考えを伝え合う。 ・自分なら、どんな方法で伝えるかをまとめる。	・鬼太鼓、ニャンドゥティ、マテ茶の資料（インタビュー等）
5 ～ 7	自分たちの暮らす地域の良さを考え、首都圏の小学生に向けて発信し、お互いのクラス地域の良さや課題を考える	市川市の小学生との交流を通して、佐渡の良さに改めて気付いたり、他の地域の暮らしを思い描いたりすることができる。	・佐渡の良さは何かと思うか、話し合う。 ・その良さをまとめ、市川の小学校に発信・交流することを伝える。 ・PR動画の作成を行う。 ・交流会を実施し、それぞれの地域の文化や暮らしについて理解を深める。 ・それぞれの地域の良さは何か、考える（豊かさの追求）。	
8	自分たちはこれから何ができるのかを考える	地元の課題を考える活動を通して、未来の佐渡に必要なもの考える。	・自分の地域の課題を考える。 ・これからも住みたい地域であるために、今自分たちに何ができるかを話し合う。	

06 本時の展開（4 時間目）

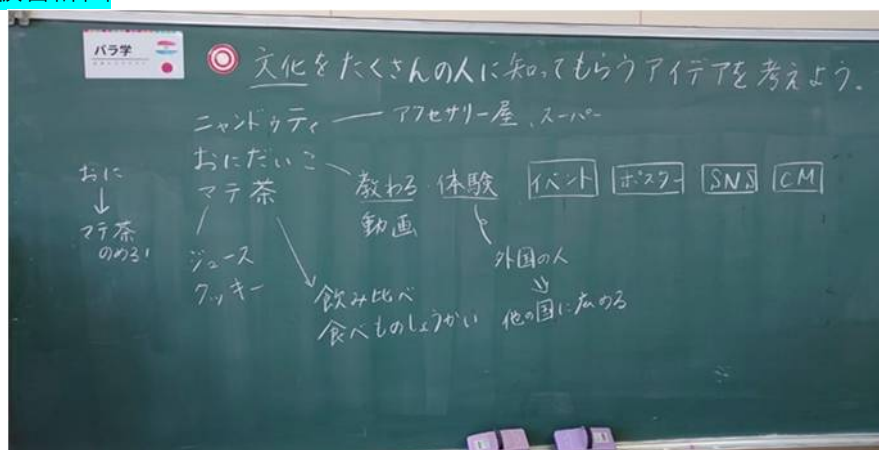
本時のねらい：伝統工芸品の作り手の思いを知る活動を通して、自分たちにとって身近な自然や伝統をはじめとする佐渡の魅力のかけがえのなさに気付き、これから自分たちにできることを考える。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	T：前回ニャンドゥティについて考えたね。みんなは、もっとニャンドゥティが高く評価されたいって言っていたよね。もっと多くの人たちにニャンドゥティを知ってもらうことはできるかな？ C：できそう！例えば、ニャンドゥティの動画を作るとか。 T：なるほど。知ってもらう方法はあるそうだね。		・ニャンドゥティ

展開 (30分) まとめ (10分)	T：前、「パラグアイと佐渡の似ているところ探し」をしたときに、「もっと知りたいもの」で、「鬼太鼓」を書いていた人が何人もいたんだけど、意外と佐渡に住んでいても知らないことがあるんだね。 C：見ているだけで、よくわからないかも。 C：でも、迫力がすごいし、うちの地区は頑張っているよ。 T：そうなんだね。どうやったら、その良さをもっとたくさんの人に知ってもらえるかな。 ◎もっと多くの人に、地元の文化の良さを伝えよう。 T：パラグアイではニャンドゥティを大事にして、職人さんたちは「受け継ぎたい」「もっと知ってほしい」って言っていたんだよ。マテ茶も、日本ではあまり知られていないけれど、パラグアイではお馴染みの文化だし、なくしたくないと言っていたよ。佐渡では、鬼太鼓はどうか。 C：無くしたくない。広めたい。 T：それぞれの文化を、もっと多くの人に「いいね！」って思ってもらえるように、企画してください。それぞれ、エキスパートグループに分かれて考えてみます。 C：鬼太鼓に関わる人たちは、鬼太鼓のリズムや迫力を感じてほしいと思っているんだね。実際に見せると、良さが伝わるんじゃない？ C：いいね。YouTubeで見せるのはどう？ C：ニャンドゥティの歴史が面白い。絵本にして伝えてみるのはどうか。 C：マテ茶は、仲のいい人たちで集まって飲む習慣があるんだ。体にもいいし、「家族で飲むといいですよ」って試してみようか。 T：元のグループに戻って、クロストークをします。グループで、イチオシのアイデアを企画書にまとめてください。 C：実際に見せるアイデア、すごくいいね。それなら、マテ茶も実際に飲んでもらうといいかも。 C：YouTubeなら全部紹介できそうだね。 T：企画書の内容を発表してください。 C：（発表する） T：いろいろなアイデアが出ました。それぞれ、YouTubeを使ったり実際に見てもらったりすることで、何が伝わるのかな。 C：凄さがわかる。感動が伝わる。 T：全部のグループの発表を聞いて、最後に、今日担	・【エキスパート活動】3つのグループに分かれて学び、話し合う。 ・各グループ共通の問いを出す。 ・【クロストーク】エキスパート活動での各グループの考えを交流する。 ・グループで企画書を作成し、発表する。	・ジグソー資料 ・鬼太鼓写真 ・マテ茶写真 ・企画書
--	---	---	--

	当の文化を、自分ならどんな方法で伝えるかを書きます。 C：やっぱり YouTube かな。動画は大人も子どもも見られるから。 C：実際に見せた方が、感動が伝わりやすそう！ T：今日学んだことを振り返りましょう。	・個人に戻って考える。 ・ワークシートに記入させる。	
--	---	--	--

07 板書計画



08 評価規準に基づく本時の評価方法

発言・ワークシート記述・企画書作成

09 学校外との連携

- ・千葉県市川市立大町小学校
- ・佐渡汽船株式会社
- ・両津南埠頭ビル株式会社

10 学びの軌跡

【A児】振り返り

9/15 ニャンドゥティのせんすはとても手間がかかるのに、1400 円なんて安くしたら人手や給料も少なくなる。そこまでして広めたいのかなあと疑問に思いました。

9/22 伝統を伝えるなら、いろいろなやり方を考えないと伝統は伝わりにくいんじゃないかと思いました。鬼太鼓はなくしたくない伝統なので、SNS などで広めたいです。

10/20 伝統は、今まで受け継いできた人の気

【B児】振り返り

9/15 文化を続けるには材料、人、時間、材料のお金がかかる。人は給料にするために高く売りたいけれど、あまり高いのは売れない。お金と生活は複雑。

9/22 例えば、ポスターをかいて、イベントを開いてニャンドゥティを紹介していけば、文化を日常品にできるかもしれない。そのものの魅力を伝えたら、文化が長く続くと思う。

10/20 佐渡の伝統の鬼太鼓は、お祭りになっ

持ちがこめられている。時代が変わってなくなってしまうのは仕方ないかもしれないけど、できるだけなくさないようにしたい。 11/7 大町小学校と交流ができてよかった。佐渡のことをすごく知ってくれていてうれしかった。大切にしている伝統や文化を知ってもらえるとうれしいんだなと分かった。	ているから日常になっている。鬼太鼓のイベントもあるから、たくさんの人が知っている。他にもできないかな？ 11/7 動画を作って佐渡のことを伝えられたり、千葉のことを教えてもらったりして嬉しかった。佐渡の伝統が県外の人に伝わってたくさんの人に広まったらいいと思った。
--	--

11 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか

パラグアイではニャンドゥティの作り手不足が懸念されている。高齢化、低収入により、文化の継承が危ぶまれている事実を伝えたかった。伝統を守る必要はあるのか、もし必要性があるなら、時代に合わせた伝統の守り方や文化の形を考えていくべきである。佐渡であれば鬼太鼓をどう守っていくか、一緒に考えてみようと思った。

12 苦労した点

ジグソー法での指導に当たり、資料を作成するのが大変だった。小学校高学年が読んで分かる資料にするため、何度も作り直した。

13 改善点

- ・アイデアを作るときに視点を絞ったらよかった。ニャンドゥティ・鬼太鼓・マテ茶のアイデアを「いくつか取り入れてもいい」ことにしたため、例えばアイデアを1つに決めた班の中には、せっかく考えたのに意見を拾われない児童がいた。→アイデアを「ニャンドゥティ」1つに絞って後日6年生に授業をしたところ、いろいろな視点でニャンドゥティについて話し合うことができた。
- ・「文化は大切である」「受け継いでいく」前提での授業だった。子どもたちに「文化は必要か？」などと問いかける時間があってもよかった。
- ・本時の落としどころが不明であった。「企画書を作り上げる」「何かの知識を得る」など、ゴールを1つに定めるべきだった。

14 成果が出た点

3つの文化（有形、無形、飲食物）についてエキスパート活動をしたため、ニャンドゥティだけを考えるよりも視点が増えた。体験活動、出張など、たくさんのアイデアが出された。

15 自由記述

子どもたちが次々と発言できていてよかった。「鬼太鼓をなくしたくない」という気持ちが発言から表れていた。